

日本史B【分析】

多様な資料を用いて出題しようという意図は見られたが、第1日程に比べると、従来のセンター試験に近い出題形式・内容であった。

写真や模式図などのビジュアル資料よりも、文字史料を使用した問題の割合が多く、従来のセンター試験に近い出題が多かった。

難易度（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

第1日程並み

小問間の難易差はあるものの、全体としては標準レベルの問題である。

出題分量（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

大問数（6）・マーク数（32）ともに第1日程と同じであった。

出題傾向分析（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

大問の構成では、第1問で授業内容に関する高校生の会話が、第4問で授業の際のホワイトボードの記述が素材とされるなど、第1日程と同様「どのように学ぶか」を踏まえた場面設定がなされている。個々の設問でも、第1日程と同様に、従来のセンター試験に比べると史料・図版・統計など多様な資料を用いた出題が増加した。また、初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識とを関連づけることで解答が可能な問題が出題された。一方で、第1日程と比べると、従来のセンター試験に近いレベル・内容の出題であり、全体としては受験生の知識および理解の質を問う問題が多かった。

2021年度【第2日程(1月30日・31日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第1問	女性に着目して見た日本史	18	6
第2問	「意見封事十二箇条」に見える古代の政治・社会	16	5
第3問	中世の政治・社会・文化	16	5
第4問	田沼時代の諸相	16	5
第5問	明治時代における西洋からの制度・技術の導入	12	4
第6問	近現代の食文化・食生活	22	7
合計		100	32

2021年度【第1日程(1月16日・17日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第1問	貨幣の歴史	18	6
第2問	日本における文字使用の歴史	16	5
第3問	中世の都市と地方との関係	16	5
第4問	近世社会の儀式・儀礼	16	5
第5問	景山英子(福田英子)の人物史	12	4
第6問	第二次世界大戦後の民主化政策	22	7
合計		100	32

設問別分析

第1問

高校生の会話を素材に、古代から近代の女性史を中心に問うている。問1は、史料の内容読解から米騒動に関するものと判断した上で、同時期の選挙制度に関する知識も交えて解答する必要がある。問5のXは、史料3がなぜ厳島神社の所蔵となっているのかを類推しての正誤を判断する必要があるため、受験生は判断に迷っただろう。

第2問

三善清行の「意見封事十二箇条」の序論の一部を素材に、古代を総合的に問うている。問3（文章中の波線部の誤っているものを選ばせる）、問4(1)（空欄に入る文章の組合せを選ばせる）は、それぞれ従来のセンター試験には見られなかった新形式の問題である。ただし、いずれも正確な知識があれば正解できる。

第3問

A奥州合戦、B南北朝の内乱を素材に、中世の政治・社会・文化を問うている。設問は、いずれも従来のセンター試験と同程度の知識を必要とする標準的な問題である。

第4問

田沼時代をテーマとするホワイトボードの記述を素材に、近世を総合的に問うている。問3は、亜欧堂田善の銅版画について、その技法の特徴を図版から読み取った上で解答する必要がある。問5は、史料の内容を注釈も参考にして慎重に読解しつつ、田沼時代の社会情勢に関する知識も合わせて総合的に判断して解答したい。

第5問

井上馨と渋沢栄一の関わりについての年表を素材に、近代の経済・外交を中心に問うている。設問は、いずれも従来のセンター試験と同様、知識を重視した問題である。＜日本史Aの第2問と共通問題＞

第6問

近現代の食文化・食生活を素材に、近現代の社会を中心に問うている。問2は、表についての説明文を参考にしつつ表中の空所に該当するデータを補充させる、という新傾向の出題であるが、日本史の知識はほとんど必要なく、データの数値と表の説明文とを慎重に照らし合わせることで正解は可能。問5は、米(コメ)の関税の維持あるいは廃止という2つの支持層とそれぞれの支持理由とを組み合わせる問題で、試行調査にも同じような発想の問題が見られた。＜日本史Aの第4問と共通問題＞

過去平均点の推移

21年度※ 【第1日程】 (1月16日・17日)	20年度	19年度	18年度	17年度
64.3	65.5	63.5	62.2	59.3

※2021年度の平均点は1/22大学入試センター発表の中間集計その2の平均点です。